

1 本年度の重点教育目標

「自分の考えをもち 人とかかわりながら 学び続ける子」の育成

2 本年度の取組の重点

- ①「確かな学力」を身に付け、「わかる・できる」達成感もてる学習指導の充実
- ②道徳科を要とした、よりよく生きるための基盤となる道徳性を育てる道徳教育の充実
- ③自他を大切にしながら自主的・実践的に取り組み、自己実現を図ろうとする態度を養う特別活動の推進
- ④児童理解に基づく、ふれあいを大切にしたい望ましい人間関係を構築する生徒指導の充実
- ⑤一人一人の教育的ニーズ・特性に応じた、社会的自立の基礎を培う特別支援教育の充実
- ⑥自分自身で生命を守り、自ら健康で安全な生活を営む能力や態度を育てる健康・安全教育の充実
- ⑦今日的な教育課題の解決を図る取組（情報モラル、キャリア、外国語、プログラミング教育等）の充実

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価結果		学校関係者評価		
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善の方策の評価	主な意見（改善策など）
①学習指導の充実	楽しく「わかる・できる」授業への改善を図り、基礎的・基本的な知識・技能を高め、学び合いを通して思考力・判断力・表現力や学びに向かう力を育てる。	b	正しく理解し、利用し、熟考するための「読解力」を高める指導の重点化を図る。	A	A	・コロナ禍の中で工夫して学習指導がなされていることがわかった。 ・会館を使った学びの場（自習学館）も地域として継続していきたい。
②道徳教育の充実	「考え議論する道徳」を意識した「特別の教科道徳」の授業実践をする。	a	物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める授業に向けて充実・改善に努める。	A	A	・コロナ禍の中、自由に話し合い議論する活動自体が難しいと思うが、児童の心の成長を期すためにも、今後も工夫した実践を重ねてほしい。
③特別活動の推進	特別活動の全体計画・年間指導計画を、実践を通して見直しを図る。	a	自己有用感・自己肯定感が高まる諸実践を重点に見直しを進める。	A	A	・コロナがおさまって、思い切り活動する子どもたちが見たい。
④生徒指導の充実	児童理解に基づく生徒指導の機能を生かした学級経営の充実を図り、いじめ、不登校等に対する組織的な取組を計画的に進める	a	「心の居場所」として互いが認め合える学年・学級経営の充実に努め、継続して計画的・組織的ないじめ・不登校の未然防止、早期発見・早期対応に取り組む。	A	A	・あいさつがしっかりできる子どもたちが多い。今後もあいさつ指導等の取組の継続を願う。

⑤ 特別支援教育の充実	支援が必要な児童の特性把握と個に応じた指導の工夫を図る。	a	早期に支援が必要な児童をピックアップし、目標を明確にして、見通しをもった支援に努める。	A	A	・支援の必要な子どもが増えているということで、今後の学校の対応に期待したい。
⑥ 健康・安全教育の充実	体力・運動能力向上のための環境整備と指導の充実を図る。	b	児童一人一人に目標をもたせ、日常的に進んで運動する取組の工夫を行う。	A	A	・運動会などで、子どもたちが思い切り運動する場面を早く見たい。
⑦ 今日的な教育課題解決	一人一台端末活用に関する研修、実践を進める。	b	積極的に研修と授業実践 ・公開を継続する。	A	B	・端末等の活用を図りながら、学校の様子や状態について外部発信をしてほしい。
⑧ 業務改善の取組	業務改善の取組の推進と、学年団や校務分掌の業務の見直しを図る。	b	専科授業や交換授業、校務支援システムの有効活用等を図り、業務改善を進める。	A	A	・子どもたちのためにも、教職員の心と体の健康を望む。
⑨ 幼保小中連携・CSの取組	「育てたい子ども像」を共有し、家庭・地域と一体となった学校運営を推進する。	b	幼保小中の教育課程の接続、保護者、地域資源・人材を活用した取組を積極的に進める。	A	B	・中学校、地域機関や施設等との連携を今後、更に強化して行ってほしい。 ・北大の学生による自習学館について今後も広報をお願いしたい。また、町会との情報共有をメール等を通して行ってほしい。

■ 自己評価達成状況

a	ほぼ達成できた (8割以上)
b	概ね達成できた (6割以上)
c	十分ではない (4割以上)
d	達成できなかった (4割未満)

■ 自己評価の適切さ及び改善の方策の適切さにかかる評価

A	自己評価及び改善策は適切であり、取組を進めるべきである。
B	自己評価及び改善策は適切であるが、若干の修正は必要である。
C	自己評価及び改善策の方向性はよいが、若干の修正が必要である。
D	自己評価及び改善策を再度検討する必要がある。